

令和4年度 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会
議事概要

日時：令和4年8月24日（水）13：30～16：30

会場：ウェブ会議システム「Webex」

■総合司会 （株）野生動物保護管理事務所 奥村取締役

<第1部：協議会>

■事務局挨拶：関東地方環境事務所 立田次長

2020年1月に策定した尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針に沿って関係機関が連携して対策を実施している。本日は関係機関からいただいた意見を踏まえて年次レポートを作成しているため、その進捗状況の共有と確認を行うとともに来年度の重点方針について考えていきたい。また、今年度は5ヵ年計画の3年目に当たるため、対策方針の課題や次期対策方針についても議論していただきたい。後半は地域別意見交換会の場を設けているため、来年度に向けて地域別の課題や各地域の実情に合わせた対策を議論していただきたい。有識者の先生方からは、今後のシカ対策の推進に向けて、ご意見、ご助言をいただきたい。

■議事：進行 関東地方環境事務所 立田次長

（1）2021（令和3）年度対策実施結果について

■質疑応答 なし

（2）2022（令和4）年度対策実施状況について（トピック）

■質疑応答

・奥日光及び尾瀬ヶ原の捕獲頭数が伸びた要因はなにか。（群馬県自然環境課）

→奥日光の捕獲では栃木県の事業として、足尾地域で新たに ICT を用いた囲いわなを導入し、50頭捕獲があった。また、日光市が実施している有害捕獲ではシカの季節移動に合わせて捕獲を実施したため、捕獲頭数が伸びたと考えられる。（栃木県自然環境課）

→尾瀬ヶ原の捕獲については過去の捕獲データから捕獲手法、捕獲適期を見極めることができた。また、捕獲努力量の増加、ドローンなどの捕獲を補助する機材を用いたことも捕獲頭数の増加に寄与したと考えられる。（野生動物保護管理事務所）

・尾瀬沼における捕獲効率は尾瀬ヶ原と比較してどうだったか。（群馬県自然環境課）

→尾瀬ヶ原の方が倍以上捕獲効率は高かった。（野生動物保護管理事務所）

（3）2023（令和5）年度重点方針の検討について

■質疑応答

・夜間銃猟については前回、群馬県の地域別意見交換会のみで議論した話題であるため、重点方針に記載するのは時期尚早ではないか（群馬県自然環境課）。

→再度検討する。

■有識者からのコメント

○谷本名誉教授

・尾瀬地域では大規模に柵が設置されたことでドクゼリやサギスゲの群落が回復している。

・シカにより攪乱を受けた場所はハクサンスゲなどの植物が穴を埋めていた。引き続きその動向を調査したい。

・鳩待峠から山の鼻までの登山道においてヤマブキショウマなどシカの嗜好性が高い植物の採

食痕が目立っていた。

- ・日光地域では中宮祠の二荒山神社周辺において、以前よりカラマツの樹皮剥ぎが顕著であったが、最近では住居エリアまで植生被害が広がっておりオオハンゴンソウの採食も確認された。日光地域では食物が減っているにも関わらず越冬個体が相変わらず利用しており、今まで被害がなかった植物まで採食する可能性がある。植生の回復とともにシカの食物資源量がどのくらいあるのか調査する必要がある。

- ・柵を設置すると柵周辺の採食圧が強くなるため、柵周辺の対策についても今後検討していく必要がある。

- ・捕獲頭数は伸びているにも関わらず植生被害が減っていないのでその原因について今後検討してほしい。

○大森主幹

- ・GPS 首輪や協議会構成員の情報共有によりシカの動きがわかりつつある。

- ・防護柵は設置しづらい場所が未設置として残っている。

- ・7～8年前と比較して防護柵優先度を再検討する必要がある。緊急で対策しなければならない場所は優先度を上げて実施した方が良い。

- ・戦場ヶ原から尾瀬へ、田代山や燧ヶ岳の低層湿原へ、そして鬼怒沼湿原の高層湿原へと被害が波及してきている。

- ・この5年間でシカの動きも変わってきており、今まで被害を受けていなかった地域でも今後被害を受ける可能性があるため、希少種の分布場所の確認、植生調査などの基礎資料を集めながら見直す必要がある。

○奥田准教授

- ・各地域での調査方法や捕獲方法など対策の道筋は見えてきている。これからは各地域で捕獲データを活用しながら捕獲適期、捕獲手法を検討していければ良い。

- ・捕獲と同時に植生保護柵の設置も引き続き必要となる。

- ・シカの密度がまだ低い分布拡大地域での対策方法を検討していく必要がある。

以上

※第2部の意見交換会の議事概要・会議資料は非公開